タンタル・ニオブ事業

重点戦略

- ●既存事業におけるさらなる生産性向上と品質改善による競争力の強化
- ●事業基盤拡大に向けた新規事業のアイテム創成および事業化の推進

事業概況

当社グループのTANIOBIS GmbHは（在ドイツ、以下「TANIOBIS社」）は、世界各地に製造拠点と販売拠点を有する世界有数のタンタルとニオブの材料メーカーです。当社は、TANIOBIS社を中心にコンデンサや半導体材料用の金属粉、SAWデバイスや光学レンズ用の酸化物、半導体用の塩化物、高機能粉末材料等の安定供給を通じ、IoT・AI社会の発展に貢献しています。

2019年度の振り返り

既存事業においては、一部製品で顧客における在庫調整等を主因に前年と比較して販売が伸び悩んだものの、この間、生産性向上に向けた各施策の検討・実行や、顧客ニーズを踏まえた品質強化を積極的に推進するなど、事業基盤および競争力の強化に努めました。また、新規事業開発においては、事業基盤拡大を図るべく、TANIOBIS社と磯原工場等との連携強化による製品開発やシナジー実現に向けた活動を推進しており、多くの顧客からのさまざまなご要望に応えるなど、上市に向けて着実に成果を上げつつあります。さらには、現TANIOBIS社と同社の管理会社であるJX Metals Deutschland社とを合併し、組織の簡素化、意思決定の迅速化を図るなど、経営管理体制を強化しました。

2020年度の見通し

米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染拡大などの影響により世界経済に不透明感が増す一方、タンタルとニオブが使用される電子部品分野では、第5世代通信（5G）や先進運転支援システム（ADAS）等の普及による需要拡大が見込まれています。

こうした状況下で、当社はTANIOBIS社への事業ノウハウ共有や欧州での共同マーケティングといった活動を通じ、既存事業の競争力強化や新規事業開拓を積極的に進めています。特に新規事業については、将来の収益の柱を早急に構築するべく、当社グループが保有する技術やマーケット情報の活用、既存事業から新規事業へのリソースのシフト、大学や研究機関など外部パートナーとの協業等を積極的に進め、遅滞ない市場参入の枠組みの構築を目指します。

TOPICS

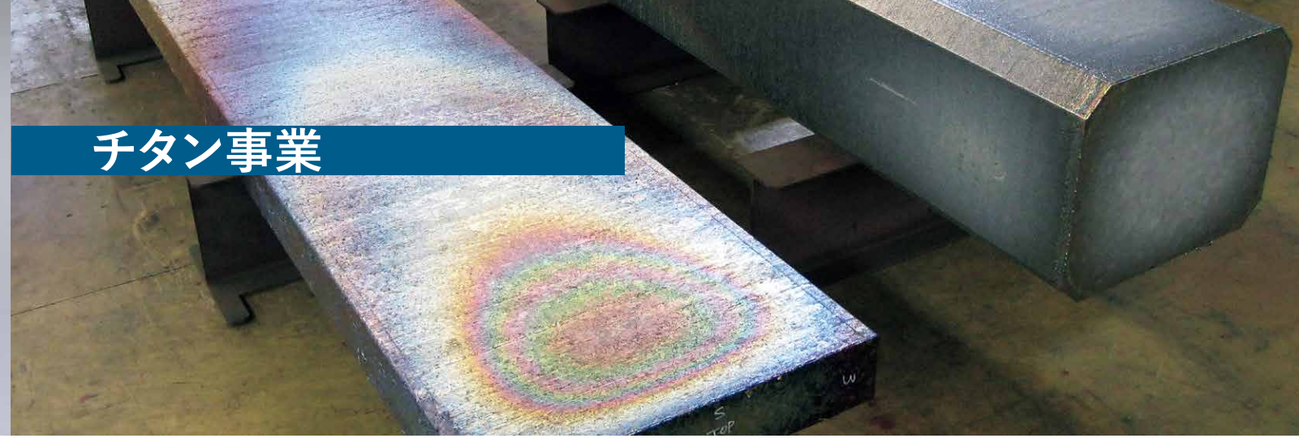
TANIOBIS GmbHへの商号変更

TANIOBIS社は、2020年7月1日付で社名を「H. C. Starck Tantalum & Niobium GmbH」から「TANIOBIS GmbH」に変更しました。「TANIOBIS」は、事業の中核であるタンタルとニオブの名前を組み合わせるとともに、「革新的なソリューション（innovative solutions）」を意味する「is」を最後に配置し、未来のイノベーション実現の中心的な役割を果たしていきたいという意志を表現しています。

今後、TANIOBIS社は新たなブランドのもと、タンタルとニオブを中心に、IoT・AI社会の実現に不可欠な高機能粉末材料による革新的ソリューションの提案をさらに加速していきます。

TANIOBIS社 新ロゴ

TANiOBIS
inspiring metal evolution



チタン事業

重点戦略

- ●成長分野への重点投資による収益基盤の強化
- ●サウジアラビア合弁会社（ATTM）の早期収益化
- ●新規事業の創出・推進

事業概況

チタンは、軽量・高強度・高耐食という特性を持つ金属であり、航空機や海水淡水化プラント、発電プラントなど幅広い分野で利用されています。当社グループの東邦チタニウム（株）では、チタン製錬や、その関連材料・技術を用いた触媒（プロピレン重合用）、化学品（積層セラミックコンデンサーの内部電極・誘電体材料等）の製造などを行っています。

2019年度の振り返り

チタン事業については、海外主要顧客からの需要が堅調であったことにより、一般工業向け需要に減速が見られたものの総じて好調に推移しました。

化学品事業の各製品の需要は、特に電子部品材料（超微粉ニッケル等）については、スマートフォン販売不振等により減速しましたが、触媒事業の製品であるプロピレン重合用触媒の販売については、堅調に推移しました。

2020年度の見通し

チタン事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により航空旅客数が激減しており、航空機向けチタン需要は未曽有の落込みでありますが、主要顧客とのアライアンス強化によって販売量を確保するとともに、AI・IoT活用等により生産コスト低減に向けた取り組みを継続します。触媒事業は、顧客ニーズに対応した製品改良・新製品の開発を進めていきます。また、化学品事業は、年度後半から第5世代通信（5G）の本格的な需要回復が見込まれており、その需要に応えるため、現在超微粉ニッケルの工場を建設しており、2021年4月に稼働する予定です。今後も触媒事業・化学品事業については、さらなる事業拡大を追求し、市場の伸びを上回る成長を目指します。

TOPICS

スポンジチタン製品を日本へ出荷
～サウジアラビア王国におけるスポンジチタン製造合弁事業～

サウジアラビア王国ヤンブー工業団地に建設したスポンジチタン新工場は、東邦チタニウム若松工場をモデルとする年産能力15,600トン規模で、2019年9月に操業を開始しました。隣接する酸化チタン工場から供給される四塩化チタンを原料としてスポンジチタンを生産しており、当面は東邦チタニウム八幡工場に出荷、同工場にて溶解しチタンインゴットとして販売します。今後も安定品質・安定供給を継続していくとともに、世界的に卓越したコスト競争力を有する工場を目指します。

名称：Advanced Metal Industries Cluster and Toho Titanium Metal Company Limited
本店所在地：ヤンブー（サウジアラビア）
事業内容：スポンジチタンの製造・販売
資本金：450,000,000サウジリヤル（120百万米ドル相当）
設立年月日：2016年2月29日
決算期：12月31日
出資比率：東邦チタニウム35%、Advanced Metal Industries Cluster Company Limited 65%